

## CONTENTS

- 木育先進地視察 岐阜ツアー ..... 1,2
- 保育者研修「森の雫」づくり ..... 3
- 令和7年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈 ..... 4

## 木育先進地視察 岐阜ツアー

木育の先進県である岐阜県的美濃市にある下牧こども園と美濃保育園を、現在のモデル園である、あやめ原こども園(都城市)とひかりの森こども園(三股町)の保育者等と木育マイスターが視察し意見交換会を行いました。

日 時: 令和7年9月16日(火)  
①9:30~11:30 ②13:00~15:30  
場 所: ①下牧こども園(岐阜県美濃市長瀬545)  
②美濃保育園(岐阜県美濃市吉川町1765-4)  
案 内 人: 一般社団法人KASANE  
代表理事 松井 勅尚 氏、理事 吉田 理恵 氏  
参加人数: 7名(保育者4名、みやざき木育マイスター1名、事務局2名)



下牧こども園



美濃保育園

### ▶ 下牧こども園での木育活動

園での木育は日常保育として四季折々の節の中におさまっており、特別な保育ではありません。緑の木育では、地域のボランティアの方と一緒に山に登り、五感を働かせるようにしています。例えば、葉っぱに触れたり、匂いを嗅いだり、観察眼鏡で色んなところを覗いたり、そのような活動を行っていくうちに、子どもが自ら「宝物さがし」と言って、自然の中を散策しています。

#### ままごと遊び

年少児は春にスギで作られた「ままごとの皿」を持って外に出かけ、芽吹いた草花を用いて「見立て遊び」をしています。お皿は毎年使うため、事前に年長児が年少児に紙やすりの使い方を教え、スギの匂いも楽しんでいきます。草花や砂などお皿に盛るものを集め、それぞれが盛り付け、出来上がったものを保育者がみんなの前で、園児に聞きながら、自分が作ったものに価値があると感じるように紹介しています。



#### お箸作り、スプーン作り

自分で作ったものには愛着がわき、大切に使います。不具合が出た時には自分で作り直します。削る作業は大変ですが、保育者と一緒にコツコツ進めています。お箸の材料はサクラやヒノキ等年度によって樹種は違ってきます。



スプーン作りでは、材料になるホオノキとカエデの木が園庭にあることから、樹木を見比べいろいろな木があることを伝えていきます。

制作では、力の入れ具合で削られ方が変わり、ザラザラからツルツルになる時は園児も磨き甲斐を実感しています。

また、地域の方がサポートに入った際には、園児の話を聞き褒めてくれるので、園児も喜んでいきます。

出来上がった箸やスプーンは、給食で使用し、使用後は水洗いし、家に持って帰って、また持ってきてもらい、園でメンテナンスすることもあります。

#### スギの箱椅子作り

地域の中高年ボランティアの方が、園児のサポートをしてくださっており、相談しながら作業を進めています。携わっている方が、新規でボランティアをしてくださる方を連れてきてくれ、常に園児をサポートしてくださる方がいます。



ボランティアの方も作業する際の注意点も慣れてきており、優しく声掛けしながら作業を見守ってくださっています。



地域には子どもが少なく、園児の半分は地域外から通っています。

ボランティアの方も、普段は子どもと接する機会が少なく、園に来て園児と接することが刺激となっており、園児にとっては見守ってくれる大人として、お互いに良い関係となっています。

## 意見交換会(質疑応答)

- ・木育を行うことで、今までの暮らしから変化はありますか？  
→木に詳しくなりました。家具の組み立てをする際、玄翁の使い方や紙やすりのかけ方などが役に立っています。
- ・木育や森育など様々なことを行っていますが、負担はないですか？  
→大変さはありませんが、園児が楽しそうな姿を見ると、こちらでも楽しく感じることが多いです。
- ・メンテナンスはどうされていますか？  
→箸やスプーンは、毎年チェックして紙やすりで磨き塗装しています。嘔吐癖がある園児のモノは、給食後に保育者が磨いたりしています。



- ・年中児でお箸作りを行っています。園児が成長してお箸のサイズが短くなった場合は作り直していますか？  
→当初は、基本の一咫半(ひとあたはん)サイズで作っていましたが、園児はすぐ大きくなるので、今は+5cmで作っています。

岐阜県内でも木育活動を行っている園は少ないとのことですが、下牧こども園では木育活動が日常となっています。園児が飽きることなく木育活動ができるように、保育者が絶えず工夫しています。

## ▶ 美濃保育園での木育活動

園では3歳からノコギリを使わせていて、なるべく色々な樹種を切ることを体験できるよう配慮しています。そのため、園には子どもたちが切った様々な樹種の積み木が置いてあります。4歳になると、お箸作りやお盆作りを行い、年長児になると、スプーン作りや箱椅子作りを行っています。3歳児では、「木のお守り」作りとして、削る作業を参観日を利用して行っています。普段の木育活動は、園の規模が大きく人数が多いので、一斉に活動をするのが難しいです。そのため、基本的に保育者と園児の1対1で空いている時間を使いながら無理なく進めています。作ったものは保育生活の中で使い、使いながら自分でメンテナンスをして

3年間使えるよう、各クラス毎に行っています。活動を始めた頃は、木でおもちゃを作っていましたが、毎日そのおもちゃを使うわけではなく一過性に終わってしまうので、そうならないようにするために、生活で使うものに焦点をおいて毎日触れる道具の方が良いということで進めています。椅子作りは、ある程度のスキルが必要です。年長児が、年少児にプレゼントしています。もらった椅子はメンテナンスしながら、3年間使っています。使用用途は、荷物を入れたり、椅子として活用したりと様々で、机を出すときには椅子、机を出さないときは机として利用しています。基本的にはしまい込めるように計算しています。



スプーン、木のお守り、箸

木の板と釘と糸を使ったストリングアートの花瓶

## ▶ 振り返り

### モデル園保育者他

- ・現在、ひなた箱はお盆としては活用しているが、箱とセットでの活用が出来ていないので、(視察したことで)箱の活用の仕方がすごく勉強になりました。自園でも取り入れてみたいと思います。
- ・両園とも、日常の中にゆったりと取組んでおり、日常の中に取り入れていけば、もっと身近になると感じました。また、道具の使い方自分のもので落とし込められると保育が広がるのでは、と感じました。
- ・木育に取組み始め試行錯誤の部分もありますが、視察させてもらい、視野が広がりました。現在取り組んでいるひなた箱も、園児と楽しみながらやっていることと思います。
- ・宮崎県の進める木育プロジェクトとして構えていましたが、固すぎていけないのかなと思いました。(木育プログラムを始める前にも取組んでいた)椎茸のコマ打ち体験やカメラ作りなども、木育だったんだと気付きました。そういうふうにはやわらかい考えで取組むと楽しみながら出来るのでは、と思いました。
- ・両園とも日常保育の中で工夫されており、再度、方向性やポイントなど共有することも大事だと感じました。
- ・地域サポーターと連携を取りながら、活動を継続できれば良いなと思いました。

### 吉田先生より

両園とも無理なく木育を進めています。最初はどちらの園も大変だったことと思います。継続か辞めるかの分かれ道もあったと思いますが、辞めずに継続することがとても大事だと感じました。宮崎県のモデル園の方々も、今は始めたばかりなので大変なことも多いと思いますが、経験を積み、苦勞を乗り越えた時には遊び心も芽生え、また、安心して取組むことができることと思います。

### 松井先生より

両園とも2010年から2012年までの3年間、林野庁補助事業の木育モデル園に手を挙げて頂き、それ以来12年間実践をされてきました。2013年からの4年間は、毎年リーダー研修に新しい先生が次々と参加してくれたことをよく覚えています。園の状況によりそれぞれ内容をカスタマイズしていき、園が大事にしているのは何なのか？を自問自答しながら教材を取捨選択してきたのでしょうか。また同じ教材でも、何を大切にするのかにより、樹種や進め方も各園で変わっていました。改めて両園に伺い感心したことは、「木育といっても当たり前になっているから意識していない」と話されたことです。これこそが日常です。視察されたみやざき木育モデル園の皆さんの今後に期待しています。

# 保育者研修「森の雫」づくり

県内の保育者に向けて、「みやざき木育プログラム」を理解し木材産業などに関する基礎知識と紙やすりの安全な使い方を学べる研修を実施しました。

日時：令和7年8月30日(土)13:30~16:00  
場所：めぐみ保育園(宮崎市)  
講師：みやざき木育マスター 緒方 由紀子 氏(概論)、  
家村 祐香 氏(実施)  
モデル園保育者：めぐみ保育園 高橋 知亜紀 氏  
参加人数：17名(保育者12名、めぐみ保育園2名、事務局3名)

## ▶ 木育概論

県内の各園から参加した参加者同士、テーブル毎で自己紹介を行い、宮崎県の木等に関する「何の木テスト」を行いました。

その後は、木の働きや森林の機能についての説明と天然林と人工林の違いや宮崎県が林業県であること、人工林ではどのように木が育てられているか、また、伐採後、木製品になって手元に届くまでの流れが説明され、木材の特徴(調湿作用や消臭、殺菌効果など)が伝えられました。

森林や木材が生活に欠かせないものであり、木材を使うことが森林や林業・木材産業を守ることに繋がると伝えられました。

## ▶ 保育者の体験談

めぐみ保育園では園長の「自然豊かな環境の中で五感を刺激する体験をさせたい」という思いに、ボーイスカウト指導者が協力し、野外活動が始まりました。森林散策や秘密基地づくりなどの活動を行っている時にモデル園の話があり取り組み始めました。

1年目は年少児クラスを対象に、「森の雫」「箸置き」作りを行いました。ステップ1として、紙やすりの使い方を学びました。ポイントは無理のない身体の使い方を身に付けることです。

2年目は、「チョロ船」作りを行い、日南市に伝わるチョロ船を通して、宮崎県の伝統文化を知る機会になりました。

次のプログラムの「マイ箸」作りは、園として園児に伝えたい想いを込め、導入から指導までを日常の中で保育者が行いました。ステップ2として、ノコギリの使い方を伝えました。

3年目は「ひなた箱」に組み、ステップ3として玄翁の使い方を伝えました。姿勢が悪いと釘が斜めに入ったり曲がったりします。やはり大切なのは身体の使い方です。

活動するうえで、保育者だけで進めていくのは大変だったので、保護者や地域の方々にも参加して頂き、姿勢や園児への励ましの声かけなど、見守ってほしい点を伝え、サポートに入ってもらいました。



取り組み始めて気付いたのは、正しい姿勢が集中力や体幹を鍛えてくれること、私たちは「木」と共に生きているということです。現在園では「Megumi木育Project」として、職員が研修を行い理解した上で園児に指導しています。

今後も園独自のやり方を模索し継続していきます。

## ▶ 「森の雫」実践

みやざき木育プログラムで育む6つの力と、それぞれのプログラムで使う道具について説明があり、今回の研修を通して、何を伝えたいか考え取り組んでほしいと説明がありました。

導入で紙芝居「もりのしずく」から始まり、「良い姿勢」の大切さと良い姿勢の取り方の説明があり、参加者も実践し確認しました。

その後、実際に「森の雫」の作り方に入りました。紙やすりの用途、使い方、削り方の説明を受け、塗装まで終えて完成させました。

## ▶ 振り返り

### 参加者より

・木育と姿勢が繋がるということに驚きました。今度、園で森の雫を実践しますが、園児の姿勢から見ていけたら良いと思います。

・園には木の材料は沢山ありますが、園児と上手く遊ぶ機会が少なく感じています。6つの力を取り入れて、もっと活用できるよう、他の職員にも伝え取り組んでいきたいと思っています。

・時間もアツという間に過ぎ、集中すると姿勢が崩れたことも感じられたので、園児と行うときは気をつけていきたいと思いました。また、園児にもどんな思いで作るかも良い経験になりました。

研修会では参加者にアンケートも実施し、参加しやすい月や曜日、場所などの聞き取りも行いました。今回、初めての実施となりましたが、アンケートの意見も取り入れながら、研修講座の時間配分や内容、進め方を検討し、より参加しやすく、分かりやすい講座が実施できるように取り組んでいきたいと考えています。

## 令和7年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈

日 時：令和7年10月22日(水) 14:00~16:00  
場 所：宮崎キネマ館 キネマ1(宮崎市)

令和3年度の木材利用部門で感謝状を授与された、宮崎キネマ館を会場に、今年度、県産材の「木づかい」に貢献した施設部門3施設、人材(設計者等)部門1者、普及啓発(活動等)部門2者に、河野知事より感謝状が贈呈されました。



### 施設部門

社会福祉法人方財福祉会  
あそびば! Hinode(ひので保育園第二園舎)  
(延岡市)

保育園の別棟として、遊び場空間、体操教室や式典場として利用される施設で、細かな部分にも気を配った設計をすることで、幼児でも怪我なく安全に楽しく過ごすことが出来、園児や保護者以外にも施設を利用してもらう機会を設け、木造の良さを体感出来るようにしています。



社会福祉法人みのり会  
特別養護老人ホームみのり園(延岡市)

高齢者福祉に関わる様々な機能が集約された施設で、用途に応じて分棟化しながら、スタッフの導線を集中させることで、利用者側・働く側両方の利便性を高めています。地域交流室では、木造トラスにより大空間を創出するなど、温かみのある空間としています。



学校法人メノナイト学園  
幼保連携型認定こども園 油津恵愛幼稚園  
(日南市)

準防火地域でありながら、設計を工夫することで、構造・内装・外壁・建具・窓枠に多くの木材を使用し、子供たちが常に木に囲まれた空間で遊べるように工夫されています。構造材調達や建具製作も地元で行うことで今後のメンテナンスに関する負担軽減にも寄与しています。



### 人材部門

株式会社 作田建築設計  
代表取締役 作田 耕一朗 氏(日南市)

餌肥杉を積極的に使用した住宅・非住宅の設計を行っており、非住宅分野では、油津恵愛幼稚園や道の駅きたごう等を設計しています。鉄骨造で検討している施主にも木材の特徴や特性を説明した上で木造を積極的に提案するなど、県産材の需要拡大に貢献しています。



### 普及啓発(活動等)部門

株式会社 良品計画(東京都)

国産材を活用した商品開発や空間設計を行い、循環をテーマにしたものづくりを推進しています。宮崎県で行っている、未利用材の活用から山の価値を再発見する山のダイゴミプロジェクトにも参加いただいています。宮崎県の森林や木材の価値を積極的に発信していただいています。



社会福祉法人小鳩会 幼保連携型認定こども園  
あやめ原こども園(都城市)

丸太や木のおもちゃ等により、五感を使った遊びを保育の中に日常的に取り入れ、継続性を持った自然体験型の保育活動を展開しています。また、保護者や地域のお年寄りと協力して木育活動に取り組むことで、地域全体への木育の普及に寄与しています。



### 木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、  
木と遊び、  
木を学ぶ